

1 スクール・ミッション
確かな学力と豊かな人間性を育む教育を推進するとともに、計画的・効果的なキャリア教育や大学・地元企業等と連携・協働した活動等を通して、自ら考え行動し、地域・社会の活性化に主体的に貢献できる人材を育成します。

2 学校教育目標
<p>教育目標…………… 校訓「明日へ」の理念のもと、教育目標である「自らに誇りを、友に誠を、人生に夢を」を柱として、活力ある学校づくりを推進し、主体的に自己実現を図る生徒の育成をめざす。</p> <p>中・長期目標…………… 単位制の特色を生かして、心身の調和のとれた発達と個性の伸長、学力の向上や進路の実現を図る。保護者や地域との連携を深め、地域に開かれた信頼される学校づくりをめざす。</p>

3 現状分析(前年度の評価と課題を踏まえて)
<p>(1)本校は、単位制の利点を生かしながら、生徒が明確な目的意識を持って日々の学業生活に取り組み、将来の急激な社会の変化に対応し、主体的に自己の進路を選択・決定できる能力の育成を目標としている。また、自ら考え行動し、地域・社会の活性化に主体的に貢献できる人材を育成する学校をめざしている。教職員一丸となって持続可能な学校を構築していくために、本校のスクール・ミッションに基づき、スクール・ポリシーの策定を進めつつ、全体の学校行事などカリキュラムを精選するとともに指導体制のさらなる充実に取り組み。</p> <p>(2)校内の指導体制は、分掌・年次の連携のもとで、基本的な生活習慣の確立及び学習習慣の定着をめざし、あいさつ運動や身だしなみ指導、主体的で対話的な授業展開や週末課題での指導等が全校体制で組織的に行われている。あわせて、教育活動全般を通じて、「自ら考え主体的に他者と協働して学ぶ」機会を積極的に設けることで変化の激しい社会を生き抜くための確かな学力と資質能力の育成に取り組む必要がある。</p> <p>(3)各教科等の「指導と評価の一体化」を促進する中で、ICT等を活用しながら、生徒の主体的な学び、協働的な学びを今まで以上に進めていく。また、そのために校内研修や公開授業週間等の機会を利用して教員間の情報共有や研究授業等を更に充実させていく必要がある。</p> <p>(4)進路指導については、キャリア教育年間指導計画に基づき適切に行われ、生徒の幅広い進路実現にもつながっている。進学クラスを設置した進学指導及び卒業生講話や上級学校による探究活動研究や面談等のきめ細かな指導によって、一定の評価と成果を得ている。一方で、生徒一人ひとりの納得がいく進路実現を支える基礎学力の定着と学習習慣の確立が課題である。生徒の進路実現を支える教員の研修機会を増やすなど、教員の進路指導・教科指導の資質能力の向上についても取り組む必要がある。</p> <p>(5)学校安全及び生徒指導等については、保護者・地域・関係機関との連携・協力を得ながら安心・安全な学校づくりを引き続き推進する。特に、いじめや不登校等への組織的な対応の強化や、情報モラル教育の充実に向けて一層取り組む必要がある。生徒の基本的な生活習慣の確立及び豊かな人間性の醸成とともに生徒の進路実現や生徒が自分の好きなことに一生懸命に打ち込めるための環境を保障するためにも、開発的・予防的生徒指導に教育相談と連携をとりながら全校体制でさらに取り組む必要がある。</p> <p>(6)社会に開かれた教育課程ということ意識し、生徒の地域へのボランティア活動への参加や学校運営協議会への参画をとおして、生徒の主体的・協働的な取組や本校の教育活動を持続発展的なものにしていく。また、学校教育目標の実現に向けた学校、保護者、地域との共通理解と連携の深化を図ることで、やまぐち型社会連携教育の仕組みを生かした学校教育のさらなる充実と魅力ある学校づくりに取り組む必要がある。あわせて、本校の取組をもっと多くの方々に知っていただくために生徒、保護者、地域に積極的に発信する必要がある。</p> <p>(7)業務改善については、教育の質を落とさずに業務時間の短縮を図るとともに教職員の健康管理を徹底することを目指す。働きやすい職場環境を整備するとともに、時間外在校等時間のさらなる削減に向けて、教職員の意識改革を図り、業務改善をさらに進める必要がある。さらに、昨年度導入した統合型校務支援システムを円滑かつ効果的に運用する必要がある。</p>

4 本年度重点を置いて目指す成果・特色、取り組むべき課題
<p>1 基礎基本の徹底とキャリア教育の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>…基本的な生活習慣を確立し、学習習慣を身に着け、基礎学力の定着を図るとともに、進路目標をしっかりとち、夢の実現にむけチャレンジし続ける生徒を育成する。</li> </ul> <p>2 1人1台端末等を活用した主体的な学びの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>…各教科等の指導と評価の一体化を促進する中で、ICT等を活用しながら、主体的に学習に取り組む態度の育成を図る。</li> </ul> <p>3 業務改善による教職員の資質向上と健康増進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>…教職員が業務の改善・見直しを進める中で、自らの資質能力の向上を図り、人間性や創造性を高めるとともに、その土台となる心身の健康の保持増進を図る。</li> </ul> <p>チャレンジ目標 … 現状打破 ～過去の自分を超越していけ～ ・週末課題の提出徹底 ・時間に余裕を持って行動する ・適度な運動習慣を身に付ける</p> <p>1年次目標 互いに認め合い、ともに進もう 2年次目標 1「雨だれ石を穿つ」をモットーに 2「愛される人」になろう 3年次目標 一人ひとりの進路実現に向けて年次で団結しよう！</p>

5 自己評価				6 学校関係者評価		
評価領域	重点目標	具体的方策(教育活動)	評価基準	達成状況の診断・分析	学校関係者からの意見・要望等	評価
教務	○基礎学力の定着を目指した学習習慣の定着	・家庭学習の記録や担任との面談を通して、進路に対する意識づけと家庭での学習習慣の確立を図る。 ・授業や課題の工夫により、学習習慣の定着を図る。	学校生活アンケート「4月当初と比較して自主学習の時間が増えた」に対する回答の割合 4:肯定的な回答 70%以上 3:肯定的な回答 50%以上 2:肯定的な回答 30%以上 1:肯定的な回答 30%未満	3 学校生活アンケートの肯定的な回答の割合は64.8%であった。特に3年次の「あてはまる」と回答した割合が他の年次に比べ高い。今年度から新たにアンケート項目として取り入れた質問なので昨年度との比較は困難であるが、進路実現に向けて各自が課題意識を持ち、学習に取り組んだ結果だと考えられる。 「あてはまる」という回答率が来年度はさらに増加するよう、特に1・2年次生に対して進路指導課と連携して進路意識の高揚を図り、教科や年次での学力向上、学習習慣の定着に向けた取組を通して、更に自主学習の時間が増えるような取組を続けていく必要がある。	○生徒の学習習慣の確立とともに、教員の授業改善が必要である。ICTを積極的に活用するなど、生徒が主体的に参加し、思考・判断・表現する機会を増やし協働的に学ぶことができる分りやすい授業を作っていくことも大事である。 ○ある程度の「やらせる学習」は必要である。学習習慣のさらなる定着に向け、今後も取組を続けてほしい。	B
	○校務支援システムの円滑かつ効果的な運用	校務支援システムの運用に関わる校内マニュアルの見直しを行い、改善を図る。	教員を対象とするアンケート「昨年度より円滑に校務支援システムを運用することができた」に対する回答の割合 4:肯定的な回答 80%以上 3:肯定的な回答 60%以上 2:肯定的な回答 40%以上 1:肯定的な回答 40%未満	4 学校生活アンケートの肯定的な回答が98.6%であった。ほとんどの教員が昨年度より円滑に運用できたと考えている。しかし、今年度は新任の教員が多かったことや、新たにアンケート項目に加えた質問項目であるため、単純に昨年度と比較による判断は難しいかもしれない。今後も円滑で効果的な運用をするために、様々な意見を取り入れながら校内マニュアルの見直しや改善を適宜行っていきたい。	○3年次の回答結果がよかった要因を、1・2年次の生徒にどう伝えていけばよいかを検討するとよい。 ○校務支援システムを効果的に活用し、引き続き業務の効率化を図ってほしい。	
情報化推進室	○主体的な学び・協働的な学びを意識したICT活用の推進	多様な意見の共有や学びの振り返りに主眼を置いた。ICTを活用した授業実践等に取り組むほか、各教科間で情報共有を図る。	4:主体的な学び・協働的な学びを意識したICT活用の授業実践を5回以上行った。 3:主体的な学び・協働的な学びを意識したICT活用の授業実践を3～4回行った。 2:主体的な学び・協働的な学びを意識したICT活用の授業実践を1～2回行った。 1:主体的な学び・協働的な学びを意識したICT活用の授業実践を行えなかった。	4 やまぐち総合教育支援センター長期研修の研究校に指定されたことを受け、1人1台端末等を用いて解決までの流れを可視化する活動を取り入れた授業を、各教科・科目で行うことができた。学習における見通しを立てる力を形成させるためにも、情報化推進室と各教科で連携をとりながら、教科横断的に主体的・協働的な学びを推進することが求められる。そのために、ICTの良さを十分に生かした実践を不断に蓄積していく必要がある。	○研究指定をきっかけにICTの活用推進が進んだことを評価する。これからも、主体的・協働的な学びを推進するために活用を進めてほしい。 ○10年後、20年後のAI社会を見据え、生徒の活用場面を増やし生徒のICT活用力や情報活用力を育ててほしい。	B
	○ICT利活用による業務改善の推進	各種クラウドの活用による資料のペーパーレス化等、ICTを活用した業務時間の短縮・業務負担の軽減への取り組みを推進する。	教職員を対象とするアンケート「ICTの活用によって業務時間の短縮や業務負担の軽減等、業務の改善や効率化が図られたか」に対する回答の割合 4:肯定的な回答 80%以上 3:肯定的な回答 60%以上 2:肯定的な回答 40%以上 1:肯定的な回答 40%未満	2 学校生活アンケートでの肯定的な回答は、約58%であった。今年度は、「Microsoft Teams」の本格運用や、職員室内の情報伝達用デジタルサインージ・クラウド型採点システムの導入などの各種取組を行った。一方、ICT利活用が業務負担軽減につながっていないととらえる教職員も複数あり、教職員にとってICT活用がかえって負担の増大に結びつかないよう、情報化推進室として丁寧なサポートに取り組んでいく。加えて、業務改善委員会と連携し、学校全体の業務の在り方についても、分掌としての立場から積極的に改善策等を提案していきたい。	○今後、デジタル化、クラウド化がますます加速していくことが予想されるため、サポート体制を整えて業務改善につながるよう推進してほしい。 ○宇部市の市政情報出前講座で、ICT教育の重要性について語る生徒たちの意識の高さに、学校が「教育の情報化」を推進してきた成果を強く感じた。	

生徒指導	○基本的な生活習慣の確立及び自己肯定感の育成	・身だしなみ指導をとおして生徒の基本的な生活習慣の確立を図り、朝の登校指導をとおしてあいさつの励行を図る。 ・部活動等の課外活動に積極的に参加することで自信と誇りをもたせ、自己肯定感の育成を図る。	学校生活アンケート「生活習慣の確立及び自己肯定感の育成が十分に図られたと思う」に対する肯定的な回答の割合 4: 肯定的な回答 80%以上 3: 肯定的な回答 60%以上 2: 肯定的な回答 40%以上 1: 肯定的な回答 40%未満	3 学校生活アンケートでの肯定的回答は、生徒88%、保護者90%、教職員39%、全体72%であった。今年度は生徒指導の基本方針として、「今日一日来てよかった学校」づくりを掲げた。生徒一人ひとりがルール・マナーを遵守し思いやりの心を持つこと、学校の広告塔であることを自覚し制服を正しく着こなすことで、誇りと自己肯定感が育成されることを繰り返し語りかけ、月一度の全校集会の前に身だしなみ指導を行うことで、けじめと緊張感がもてるように努めた。毎朝の登校指導、校内外の巡視なども、全教職員の協力を得て実施できたが、身だしなみ指導については、さらなる理解と協力が必要である。また、評価基準に含まれていないが、「部活動の内容や活動時間は適切である」の肯定的評価は、生徒89%、保護者90%、教職員94%、全体91%であった。 生徒に寄り添いきめ細かな対応が可能となるよう、今後とも教育相談、養護教諭、SC等との連携、情報共有に努めていきたい。	○教職員の評価が低いのが気になる。教職員の「もっと、こうあってほしい」という願いを生徒に伝え、基本方針を共有し、生徒と教職員が同じ方向をみざして進んでほしい。 ○人権に関する面からしても、全体で身だしなみ指導を行うのではなく、適切な身だしなみについて生徒自身が考え、行動するような指導が好ましいと考える。中学校では、身だしなみの一斉指導は取り止めた。 ○多様な価値観や生まれもった容姿を認め、区別しないという考えを学校から発信していくべきである。 ○生徒会を中心とした活動はたいへん評価できる。 ○生徒が社会に出た時のためにも、挨拶に関する指導をしっかり行っていたきたい。大学に入学してきた卒業生たちはよく挨拶をする。 ○ユニクロ「届けよう、服のチカラ」プロジェクト」に参加させていただいた。趣旨に賛同した保護者が多く、宇部中央高校の活動に理解が得られたのだと思う。また、小学校にお願いに来た生徒会長の女子生徒も清々しい立派な態度でうれしく思った。活動に誇りと自覚を感じた。これからも、生徒が主体的に活動できる特別活動を推進してほしい。
	○特別活動への主体的参加の推進	生徒会執行部のリーダーシップを育成し、コミュニティ・スクールの地域貢献の機能を生かした生徒会活動や学校行事への積極的、主体的参加を促す。	学校生活アンケート「生徒会を中心に各行事ともクラス全員の積極的な参加が見られ、活動が活発に行われていると思う」に対する回答の割合 4: 肯定的な回答 80%以上 3: 肯定的な回答 60%以上 2: 肯定的な回答 40%以上 1: 肯定的な回答 40%未満	4 学校生活アンケートでの肯定的回答は、生徒93%、教職員82%であった。生徒会執行部を中心に、生徒総会や各種委員会活動の活性化に取組んだ。生徒総会での校則見直しに関する活発な意見交換を受け、生徒会が実施した現行ルールの遵守状況に関する調査を基に今後議論を深めていきたい。常設委員会は、委員長とクラス役員の選考方法を改め活動の活性化に努めた。今後も生徒の当事者意識・主体性を高めていくために、各種委員会活動の生徒全員への周知徹底を図って行きたい。 学校行事については、「明日葉祭」を全年次の保護者に拡大して公開することができ、準備・運営においても生徒の自主的な活動の場面が多く見られ、目標は達成されたと考えている。スポーツフェスティバルでは特に「生徒主体」の運営を目指し、生徒会を中心に生徒達が主体的に熱く取り組み、大きな成果を上げることができた。また、近隣の小学校や中学校と生徒会を中核に連携し、ユニクロ「届けよう、服のチカラ」プロジェクト」で成果をあげることができた。 今後は、業務改善の視点からも、生徒が主体的に取組む機会を広げて行きたい。	
	○進路実現のための学力養成	希望進路実現に必要な学力養成のため、課外授業実施・学習会実施・自習室解放や、外部関係機関との連携により計画的・系統的な指導を図る。	学校生活アンケート「課外授業実施・学習会実施・自習室解放や、外部関係機関との連携(模試・講演会など)により、希望進路を実現するために必要な学力が身につけていると思う」に対する回答の割合 4: 肯定的な回答 90%以上 3: 肯定的な回答 70%以上 2: 肯定的な回答 50%以上 1: 肯定的な回答 50%未満	3 学校生活アンケートの肯定的回答が、生徒86.3%、保護者67.5%で、年次が進むにつれて増加傾向にあった。 課外授業は、学期中・夏季休業中(1~3年次)、冬季休業中(3年次)、春季休業中(1・2年次)に実施した。希望者が少なく実施方法等の改善が求められる。 学習会は、毎週土曜日の他、夏季休業中(1~3年次)、冬季休業中(1・2年次)に行った。3年次の自習室・学習会参加者は2学期から増加したが、1・2年次の学習会希望者が少なかった。学習会、自習室の利用を促進し学力向上に結び付けた。 外部機関の利用は、ベネッセとの連携で1・2年次に進学講演会(生徒対象)、スタサポ・模試結果分析研修会(1・2年次教職員対象)、代々木ゼミナールの連携で小論文研修会、PTA総会にて東進ハイスクールの協力のもと保護者向け進路講演会実施。また、新旧3年連絡協議会、進路指導検討会(教員対象)を実施。これらにより、生徒の学力・学習状況の情報を把握し、今後の進路指導方針を共有し、指導の充実に向けている。また、模試の計画的な実施に加えて、第一学習社(小論文、生徒向け)、公務員課外(YIC公務員専門学校:7回)、東進ハイスクール(無料模試)、就職サポーターによる面接指導等(年6回)を行うことで、より質の高い指導につなげている。 また、1年次が学力向上を目的にベネッセのClassを無料実施し、学力向上と進路意識の高揚を図り、少しずつ成果を上げている。	○生徒の進路意識が高まるさまざまな取組が実施されており、とても評価できる。 ○自習スペースの確保が難しい中、自習室の開放に大変感謝している。職員室前に教員が生徒の質問に答えるスペースが設けられていることもよい取組である。 ○進路実現のための学力養成は、日々の取組が最も大切であり、しかも早期からの取組が重要と考えられる。課外授業や外部機関の利用をきっかけに日々の学力向上に向けた取組につながるよう期待する。 ○「総合的な探究の時間」のPDCAを確実に、効果的なキャリア教育の推進をこれからも進めてほしい。
○進路意識向上のためのキャリア教育の計画的推進	面談(科目選択指導、進路指導等)・「総合的な探究の時間」・「上級学校見学」・「卒業生講話」等を計画的に実施し、進路に対する意識を高める。	学校生活アンケート「面談(科目選択指導、進路指導等)・総合的な探究の時間・上級学校見学・卒業生講話等をおして、進路に対する意識が高まった」に対する回答の割合 4: 肯定的な回答 80%以上 3: 肯定的な回答 60%以上 2: 肯定的な回答 40%以上 1: 肯定的な回答 40%未満	4 学校生活アンケートの肯定的回答が、生徒87.6%、保護者75.4%であった。年次が進むにつれて増加傾向にあった。 「総合的な探究の時間」では、例年10月に実施している1・2年次対象の大学の先生によるSDGsに関する出前講座に加え、今年度新たに2年次で9月に山口大学の教員チームによる探究活動支援、10月に宇部市出前講座を活用するなど、外部との連携が進んでいる。これらにより1月末の学習成果発表につなげることができた。 1年次生徒は5月に上級学校見学を実施。生徒の進路意識向上につながったという意見が多かった。 全校生徒対象の「本校卒業生との座談会」(32名参加)実施。「進路意識が高まった」とするアンケートの「とてもそう思う」という回答が全員であった。これらの取組を通し、3年次生の自習室の利用も増えた。さらに、1・2年次生の利用者も出てきた。これらの良い流れを今後とも続けていきたい。		

総務	○図書館利用の活性化	図書委員を中心に本の紹介や読書イベントの企画などを行い全校生徒にアピールするとともに、授業においても各教科やLHRなどでの利用を推進する。	4 読書推進イベントを5回以上実施し、前年の貸出冊数を上回った。 3 読書推進イベントを学期に1回実施した。 2 読書推進イベントを一回実施した。 1 読書推進イベントを実施できなかった。	3 ビブリオバトルなど、読書を推進するイベントを各学期に実施することで、読書への興味喚起や図書室をアピールすることに一定の効果があったと考える。 しかし、学校生活アンケートの結果は肯定的回答が多いとは言え、一割を超える否定的回答もあることから、より一層の改善をしなければならない。 利用者の希望をふまえた本の購入や季節やイベントに応じた本の提示、コーナーづくりなど、魅力的な図書室になるよう来年度に向けて準備をしていきたい。また、図書委員のアイデアを積極的に取り入れ、生徒にとって身近な図書室にしていきたい。	○「行きたくなる図書館経営」を進めてほしい。 ○PTA活動については難しい課題が山積している。「我が子のため、生徒のため・学校のため」の活動となるように継続して頑張ってもらいたい。 ○PTA総会の出席率などから、PTA活動の継続が危機的状況にあるため、早急に対処が必要である。 ○保護者への連絡事項は、メールなど全てシステム上で行えないか。業務改善にもつながると考える。 ○生徒が保護者をPTA総会に誘いやすくなるような取組があると、保護者の出席率が上がるのではないかと。 ○PTA総会後の保護者会において、クラスや年次の教員だけでなく部活動顧問と話す機会もあると出席者が増えると思われる。	B
	○保護者との連携強化	保護者との意見交換や情報共有を積極的に行うことで信頼関係を築き、学校との協働活動への理解を深めてもらう。	4:PTA活動や学校行事について、文書やインターネットを通じて、毎回双方向でのやり取りを行った。 3:PTA活動や学校行事について、文書やインターネットを通じて、数回双方向でのやり取りを行った。 2:PTA活動や学校行事について、文書やインターネットを通じて、毎回情報発信を行った。 1:PTA活動や学校行事について、文書やインターネットを通じて、数回情報発信を行った。	3 PTA総会は近年出席率が落ち込んでいることから、今年度は進路講演会を同日開催し、出席率増加への改善を図った。しかし出席率は15%で増加にはつながらず、実施時期や時間、内容に関して再検討の必要性を感じた。 一方PTA評議員の活動については、5月の評議員会には17名中13名が出席し、明日葉祭等の学校行事や各部会の活動(朝のあいさつ運動・探究活動研究・学校保健委員会)への積極的な参加が見られた。ただ、多くの方がPTA活動に多大な時間や労力をかけておられることから、今後の課題としては、PTA役員や評議員をされる方にとって活動が大きな負担にならないよう内容の精選や再検討をする必要がある。また、役員や評議員の選出についても現行の方法について意見を伺う機会を設け、より活動に関わりやすい形を模索していきたい。		
保健環境	○心身の健康の保持増進	・基本的な生活習慣の確立に向けた指導の充実を図る。	学校生活アンケートで「基本的な生活習慣を見直し、健康な生活を送ることができた」に対する回答の割合 4:肯定的な回答 80%以上 3:肯定的な回答 60%以上 2:肯定的な回答 40%以上 1:肯定的な回答 40%未満	4 学校生活アンケート「基本的な生活習慣を見直し、健康な生活を送ることができた」という質問に対して、「あてはまる」と回答した生徒が54.1%、「ややあてはまる」と回答した生徒が36.2%で、全体での肯定的な回答は90.3%であった。1学期に行った基本的な生活習慣に関するアンケートでは平日と休日では睡眠時間が大きく異なることや、睡眠について気になっている生徒が半数以上いることがわかった。2学期に行った生活習慣に関する講演会後のアンケート結果では、講演内容がとてよく理解できたが62.5%、だいたい理解できたが35.0%で合わせると97.5%であった。また、今後の生活を変えてみたいと思うと答えた生徒は89.3%で、今後より望ましい生活習慣が身に付くよう継続した指導が必要である。	○インターネットやSNSの利用が日常化し生活習慣の乱れや心身の健康を害するといった心配がある中、肯定的な回答をした生徒が90%を超えていることは評価できる。今後も継続した取組をしてほしい。 ○学校の花壇や環境などが整備されており、いつも感心している。 ○環境美化活動に積極的な生徒とそうでない生徒の差がはっきりしているのだろうか。がんばっている生徒にしっかり価値付けをしてほしい。	A
	○学習環境の整備	・清掃活動の徹底とゴミの減量化を促進させながら生徒の環境意識の向上を図る。 ・花壇づくりなど校内美化に努め学習環境を整備する。	学校生活アンケート「清掃活動や花壇づくりが計画どおり実施され、環境意識も高まった」に対する回答の割合 4:肯定的な回答 80%以上 3:肯定的な回答 60%以上 2:肯定的な回答 40%以上 1:肯定的な回答 40%未満	3 学校生活アンケート「本校の生徒は清掃活動に積極的に取り組み、校内美化が行き届いている」という質問に対して、保護者の回答では「あてはまる」「ややあてはまる」が94.0%であった。一方、教職員の回答では「あてはまる」「ややあてはまる」が57.6%で、過去2年間と比べると最も低い数値となった。アンケートの結果から、保護者と教職員の肯定的な回答に33.1%の差があることがわかった。花壇づくりについては環境委員が中心となり、教職員及び生徒ボランティアが共働して、花苗の植え付け・除草を計画的に行った。7月、11月の花苗植え付け及び除草ボランティアには生徒が53名参加し、生徒の自発性を促す機会を設けることができた。		
社会連携教育	「やまぐち型社会連携教育」の仕組みを生かした取組の充実	・全校生徒が主体的に社会連携教育活動に参加できるように呼びかけを行う。 ・ホームページ、マチコミメール等を活用し、生徒の活動の様子を情報発信を行う。	学校生活アンケート「ボランティアや総合的な探究の時間における探究活動など、社会と連携して取り組んでいる」に対する回答の割合 4:肯定的な回答 80%以上 3:肯定的な回答 60%以上 2:肯定的な回答 40%以上 1:肯定的な回答 40%未満	4 学校生活アンケート「ボランティアや総合的な探究の時間における探究活動など、社会と連携して取り組んでいる」に対する「ややあてはまる」「あてはまる」の回答の割合は、全年次の割合は89%、年次が上がるごとに割合も高くなっている。様々な活動を通して、関心が高まっていると考えられる。また、保護者の方も年次の割合で90%が、「ややあてはまる」「あてはまる」と回答されており、地域での様々な活動の様子をホームページ、学校連絡メール等で情報発信したことなどによると考えられる。ユニクロ「届けよう、服のチカラプロジェクト」をはじめ、地域での活動を実施していくにあたり、多くの団体等に協力をしていただいた。今年度は、近隣の小学校や中学校と連携し、一緒に活動を行った。学期により生徒の参加者等に増減が大きい為、年間を通じて生徒が主体的に活動していけるような活動の工夫を今後検討していく必要もある。	○小・中学校との連携を含め「総合的な探究の時間」が有効に使われていると感じる。 ○地域のスマホ教室に本校の生徒が参加してくれ、学校と地域がつながっていることを強く実感した。大変よい取組である。	A

業務改善	業務の効率化	<p>業務改善を促進するため、課題を抽出し、計画的に改善に向けた取組を全校体制で行うとともに、教職員のチーム力とタイムマネジメント力を上げる。</p>	<p>年間を通じ1カ月の時間外業務時間が45時間を超える教職員の割合</p> <p>4: 20%未満であった。 3: 20%以上40%未満であった。 2: 40%以上60%未満であった。 1: 60%以上であった。</p> <p>※通常予見することができない業務量の大幅な増加は別途対応する</p>	<p>3</p> <p>月平均の時間外在校等時間が45時間を超えた教職員の割合は32%(R3 41%)であった。9月・1月に時間外業務時間の上限時間確認表を個票で配付し、面談で確認するなど、業務実態を見える化した。</p> <p>昨年度新設した業務改善委員会を動かし、全教職員で知恵を出し合いながら組織的に取り組んだ。5月からクラウド型自動採点システムの利用開始、7限のある日の時程の見直し(試行)、一括徴収金振込など積極的に進めた。夏には各分掌内で担当業務に偏りがなく平準化を図った。また、8月には講師を招聘してタイムマネジメント研修を行い、自身の働き方について見つめなおした。これらのことにより、教職員が主体となった取り組みが進み、業務時間の更なる短縮と教職員の余裕時間の確保につながった。学校生活アンケートで「働き方改革に伴う組織的な対応が進み、以前よりも多忙感が減少している。」と答えた教員の割合は58%(R4 44%)であった。教育の質を高めながら、引き続き業務の精選、タイムマネジメントの徹底を図っていきたい。</p> <p>○時間外在校等時間月別平均(4月～12月集計) 月別平均 R3 43.7時間 / R5 38時間(5時間減少)</p>	<p>○業務改善委員会やタイムマネジメント研修などに取り組み、業務時間の短縮をめざしていることは評価できる。業務の均等化を図り、引き続き業務改善に取り組むとよい。</p> <p>○教職員の業務改善を検討する際には、どうしても業務をスクラップすること(中止や廃止など)への抵抗感が生じると思うが、少しでも教職員が働きやすくなるものであるなら、恐れることなく積極的に進めていってよいと考える。</p> <p>○再検査の要受診率が100%になるように、管理職が養護教諭やSC等と連携し、教職員への指導を引き続き行うとよい。</p>
	健康管理	<p>健康診断結果に基づいた健康管理を行い、面談等の機会を使いながら意識改革を行い受診率の向上を図る。</p>	<p>4: 再検査者の受診率が100%であった。 3: 再検査者の受診率が90%以上であった。 2: 再検査者の受診率が80%以上であった。 1: 再検査者の受診率が80%未満であった。</p>	<p>2</p> <p>再検査者の受診率は80%であった。要精密者は昨年度19名のところ今年度は14名と減少したものの、例年同様生活習慣に起因する脂質異常の割合が依然として高かった。食生活の見直しや運動により改善が可能であるため、日頃の生活習慣の見直しを職員に促した。</p>	

A: 取組が優れている B: 取組がよい C: 取組がおおむねよい D: 取組に改善が必要

7 学校評価総括(取組の成果と課題)	
【成果】	<p>○担任による面談や学習時間記録の記入、各教科の課題の工夫などにより自主学習の時間が増えた生徒が多くなっている。(教務)</p> <p>○昨年度と比較して、校務支援システムが円滑に運用できるようになった。(教務)</p> <p>○主体的・協動的な学びを意識したICT活用の授業実践を積み重ねることができた。過半数の教員がICT活用による業務負担軽減を実感できている。(情報化推進室)</p> <p>○毎月1度の身だしなみ指導、毎朝の登校指導・通学マナー指導等を全教員の協力により効果的に実施できた。(生徒指導)</p> <p>○「本校卒業大学生との座談会」、「卒業生進路講話」、1・2年次対象に行った進路講演会等で生徒の進路意識の高揚を図った。また、進路指導検討委員会、教員対象で「小論文・志望理由書」の研修等を実施し、進路指導力の向上を図った。(進路指導)</p> <p>○PTAバザーやボランティア清掃活動など、保護者と密に連携を取りながら取り組むことが出来た。(総務)</p> <p>○イベントを通じて、全校で読書に親しむ機会を持つことができた。(図書)</p> <p>○清掃活動については環境委員が掃除時間に各教室のゴミを収集することにより、教室の掃除を効率的に行うことができるように工夫した。(保健環境)</p> <p>○花壇づくりに生徒ボランティアを募集し、生徒の自発性を促す機会を設けることができた。(保健環境)</p> <p>○地域連携活動に生徒会、ボランティア委員を通じて呼びかけを行い、生徒が参加しやすい工夫を行った。(地域連携)</p> <p>○宇部市・山口大学と連携したことで、「総合的な探究の時間」において社会と連携・協働した取組の幅が広がり、生徒は、さまざまな人々とのリアルな体験を積み重ねることができた。本校は、宇部市・山口大学と連携した取組を次年度以降も継続する関係性を構築することができた。(地域連携)</p> <p>○業務改善委員会を軸に、全教職員が一体となって組織的に勤務体制の改善、業務の見直し、効率化に取り組んだことにより、メリハリのある働き方やICTを活用した業務の効率化がさらに促進できた。そのことにより、更なる業務時間短縮と教職員の余裕時間の確保につながり、教職員全体の時間外業務時間がより減少した。(業務改善)</p> <p>○再検査未受診者へ機会あるごとに個別に働きかけ、受診率が向上した。(業務改善)</p>
【課題】	<p>○自主学習の時間が増えていると回答した生徒は多いが、スタディサポートなどの結果では家庭学習の時間が少ないので、家庭学習の時間を増やす取り組む必要がある。(教務)</p> <p>○校務支援システムは運用が2年目に入った現在、円滑な運用が進んでいるが、支援システムの運用も含め引継ぎを意識した日々の業務への取り組みが必要である。(教務)</p> <p>○ICTを活用した授業実践を教科横断的に実施・蓄積させるほか、ICT活用に伴う業務負担感を増大させないようにする必要がある。(情報化推進室)</p> <p>○生徒会を中心に生徒主体の行事を充実させること。また、生徒の身だしなみについて、基準に準じて、指導を徹底させること。(生徒指導)</p> <p>○進路意識のさらなる高揚を図り、進路実現に向けた生徒の学習習慣の定着により学力を向上させること。(進路指導)</p> <p>○保護者の方が関わりやすいPTAの組織づくり(総務)</p> <p>○日常的に読書に関心をもち、図書室を利用してみようと思えるような環境づくり(図書)</p> <p>○持続可能な花壇管理を行うことができる仕組みづくり。(保健環境)</p> <p>○学期により生徒の地域連携活動への参加数に増減が大きい為、年間を通じて生徒が主体的に活動できるように工夫すること。(地域連携)</p> <p>○「総合的な探究の時間」担当教員の校内人事や異動等の影響を受けずに本校の取組が持続発展的なものになるように、本校の実情に応じた持続可能な推進体制を構築していくことが必要である。(進路指導・地域連携)</p> <p>○職員の健康を守り、業務改善をさらに促進しながら、ウエルビーングな職場づくりに取り組みつつ、本校の魅力や教育の質を維持発展させていくこと。(業務改善)</p> <p>○健康診断要精密者の受診率を向上させること(業務改善)</p>

8 次年度への改善策	
<p>○進路指導課とも連携し、進路意識の高揚を図りながら家庭学習の時間が増えるような取り組みが必要である。(教務)</p> <p>○業務の引継ぎを見据えて、簡単なマニュアルの作成やメモ書きの作成を進めていく。(教務)</p> <p>○教科・科目を超えて柔軟に活用できるような授業実践例を開発・提案していき、円滑に情報共有を行う。また、教職員間での理解を図りながら、ICTにかかる丁寧なサポートを推進していく。(情報化推進室)</p> <p>○生徒会の生徒を中心に、生徒自らが考え、自主的に学校生活を充実したものにできるように促す。また、生徒自らが考えて、身だしなみに気を付けることができるように取り組む。その際、社会通念、性の多様性の尊重、広く人権尊重の観点に立ち、校則の見直しを進めていく。(生徒指導)</p> <p>○学力向上に向けて、授業、課外の充実、学習室の活用の推進に取り組む。進路講演会等を通じて、進路意識のさらなる高揚を図る。また、新旧3学年連絡会、進路指導検討委員会(年3回)、教員研修等とおとして、教員の進路指導力の向上にも取り組む。(進路指導)</p> <p>○PTA活動に対して多くの方が感じられる関わりづらさについて意見を伺い、より気軽に取り組み始める活動内容を考えていく(総務)</p> <p>○全校生徒へのアンケートを実施して生徒からの意見を集約し、図書室運営に役立てる。(図書)</p> <p>○生徒の環境美化に対する意識啓発及び自ら積極的に清掃活動に取り組む生徒の育成を図る。(保健環境課)</p> <p>○地域での活動を行う際には、様々な準備等が必要になる。校外での活動には参加しにくい生徒や地域活動に少し関心のある生徒などに呼びかけて、活動の準備等も一緒にやってもらうことから参加を促すなどの改善を図っていきたい。(地域連携)</p> <p>○社会と連携・協働する「総合的な探究の時間」の取組のPDCAを確実に先行し、先進校視察の成果を活用しながら、持続可能な校内推進体制を整えていく。(進路指導・地域連携)</p> <p>○業務改善委員会を軸に、全教職員で知恵を出し合い、働きやすい職場環境の整備や業務改善をさらに促進することで、ウエルビーングな職場づくりに取り組む。(業務改善)</p> <p>○要精密者に早期受診の声掛けを定期的に行う。(業務改善)</p>	